

# 学生委員会の 「これまで」と「これから」

本日は、地域政策学会・学生委員会の皆さんに集っていただきました。2025年度からいよいよ4期目に突入する、学会のこれからを担うフレッシュな組織です。今日集まってくれた5人は、3年前に始まった学生委員会の初期メンバーでもあるので、これまでどんな活動に取り組んできたのか、これからどんな活動を展開していこうとしているのか、いろいろ聞いていこうと思っています。座談会には、5人の委員の皆さんに加えて、学生委員会創設時に学会長だった中村先生にも加わっていただきます。

**まず中村先生。学会長に就任した時に学生委員会を立ち上げるという構想を持たれたと思うのですが、どういうコンセプトで学生委員会をつくらうとされたのか教えてください。**

**中村** おおよそこの大学・学部でも地域政策学会と同様に「学内学会」と呼ばれるものが設置されていて、研究成果を学生に還元することなどを目的の一部としていていると思います。学会運営は会費で行われますが、収入構成をみると学生会員からの会費の割合が高いので、学生さんにもっと還元する方法はないものかと考えていました。これまでも、学会誌『地域政策研究』や『アプローチ』の発行、学術文化講演会の開催などで還元してきましたが、例えば講演会のテーマは先生方が提案したものだけだったので、学生さんたちが本当に聞きたいものとは違う可能性がありました。そこで、学生委員会を立ち上げ、学生の皆さんの意見を集約するとともに、大学・学部の活性化も同時に図ることを目指しました。

**現在、学生委員会が取り組んでいる活動について説明してもらえますか。**

**新井** 主に3つあります。まず1つ目がオリジナル雑誌『Regio』の発行です。次に学術文化講演会の講師の提案と講演会の運営サポート。そして3つ目は、現地調査の実施とその内容をまとめた記事の作成です。『Regio』にはいくつかの内容があります。まず、地域研究、略して『地究』というコーナーがあり、我々が興味を持った地域課題について考察したものをまとめています。次に、地域政策学部の先生方の研究を紹介する研究室訪問のコーナーがあります。それから現地調査で得られたことや学術文化講演会の話題を紹介する

るコーナーがあります。

**菊池** 学術文化講演会では、メンバーの提案をもとに講師や論題を選定し、候補となった方などに連絡をとりながら、講演会の実現に向けて交渉を重ねていきます。また講演会当日は、司会や受付など運営のサポートも担います。私が企画して実施できた講演会では、高崎市出身の映画監督の枝優花さんにお越しいただいたのですが、聴講した学生からも多くの質問があつまり、多くの人にとって良い刺激になって、企画した意義を実感することができました。

**中村** 学生委員会の皆さんが企画した回は、独特で存在感のある先生がお越しになられたりして、とても魅力的な講演会になりましたね。

**講演会を実現するまでのプロセスってどんな感じですか。どうやって講師の方を選んで、その後どういうふうにアプローチしていますか。**

**川上** 菊池さんが紹介していた枝監督の場合のように、「この人を呼びたい」というような提案や特に人を定めずに「こういったテーマの講演会にしたい」というような提案を会議で出し合っていきます。例えば、萩原朔美さんにお話ししていただきたい、宇都宮ライトレールについてのお話を聞きたい、イスラム教に詳しい専門家を呼びたい、などです。これらのテーマに沿って講師を選定し、自分たちで連絡を取って実現に近づけてきました。講演会のポスターの作成なども担当しており、これまでにそのような経験はなかったんですが、いろいろと工夫して納得いくものを作ってきました。

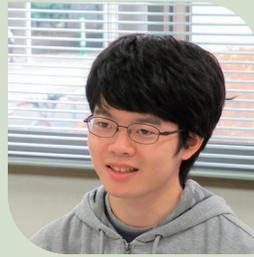
**これまでの講演会を企画するにあたって、なにか課題になることはありましたか。**



中村 匡克 教授



江口 恵輔 (OB)



新井 敬太 (4年)



出水 翼 (4年)



菊池 伶奈 (OG)



川上 聖子 (4年)



**江口** 例えば、予算の制限などがありました。西日本の方の方をお呼びしたいとなった時に、お支払いできる交通費の規定に上限があるため、どうしても自己負担が発生してしまうことになり、断念したことがありました。講師の方の所在地が遠かったりすると、依頼するのを諦めているのが現状です。この状況を改善するために、今後はZoomでの開催などを検討出来たらいいなと思っています。また、より多くの学生が聞きたい講演会を開催できるように、学生にアンケートを行ったりすることも考えています。

**菊池** 聞きたいなって思う方の話を聞けるように、今後いろいろと努力していきたいです。講演会に参加することで、学びに繋がったり、自分が共感できるものが増えたり、学生が新しい知見を広げる上で大事な機会になっていると思います。より多くの方に参加してほしいですし、より多くの方が聞きたいと思う方にアタックしてみたいです。

**次に現地調査について教えてください。これは、学生委員会のみなさんが地域課題やまちづくりの成功事例を学ぶために、現地を訪問してみるという企画ですよね。これまでに3回の現地調査を実現してきたと思いますが、どんな感じでしたか。**

**菊池** はじめての現地調査は、2023年の春に西毛地域の富岡市・甘楽町などを訪れました。富岡製糸場や甘楽町のめんたいパークなどに上信電鉄で訪問しました。私は、普段JRしか乗らないんですけど、はじめて「ローカル線」風情がいったばいの電車に乗れたので、印象に残っています。他県から群馬県内の大学に通っているのですが、卒業したらここが第二のふるさとになると思っているのですが、県内の色々なところを見られるいい機会でした。

**江口** 2023年の夏に実施した2回目の調査では、JR両毛線と東武伊勢崎線を乗り継いで太田市に行きました。太田市では、浅野食堂さんというところで名物の太田焼きそばを食べました。高崎から太田までは割と遠いので、そういった名物があることも知りませんでした。事前にネットなどで調べていたお店にみんなで行くことができ、いい思い出になりました。そのあと高山彦九郎記念館、太田市美術館・図書館を訪問しました。太田市美術館・図書館は、太田駅前にできた施設で、図書館と美術館が一体的になっている施設です。とても近代的な施設で、スロープを歩いていくと階段を使わずに上の階まで行くことが出来るようになっていっています。日当たりのいいカウンターなどがあり、カフェのような空間で本を読めます。

### 高山彦九郎という方はどのような方ですか。

**新井** 太田市出身の高山彦九郎は明治時代の志士で、尊王思想を唱えていた人物です。彼の日記の記録から全国を旅していたことがわかっているのですが、各所で伝聞に努めてきた様子が伝わってきます。記念館は、彼の実家を改装した建物になっていて、2階の企画展示室では「太田市の原始・古代の展示」が行われていて、貴重な資料などを見ることが出来ました。

**出水** 3回目は、2024年の春に栃木県宇都宮市を訪問することにしました。前年の学術文化講演会では、宇都宮市のスタッフの方をお迎えして、新しく導入される宇都宮ライトレール(LRT)のお話をいただいていた。そこで今回は、宇都宮に行ってLRT開業後の状況を観察してみようということになって実現した調査です。まず市役所に訪問して、当時のお話を伝えした後、開業後の状況についてお話を伺いました。

報道で見た通り好調だったようです。その後、宇都宮城を訪問してから中心市街地近くの餃子通りでお昼ご飯に餃子を食べました。最後には、LRTに乗って清原工業団地まで行きました。僕は地元が鹿児島県なので、路面電車というものには馴染みがあって、時間通りに来なかったり街中をゆっくり走ったりするイメージを持っていたのですが、宇都宮のLRTは時間通りに列車が来たり、専用の線路をかなりの速さで走行したりしていて、全く違う乗り物だなと思いました。

**川上** 高崎駅から大学までの距離は、宇都宮LRTの路線長より短いので、高崎でもLRTを引けるんじゃないかと思ったりもしました。これまでの現地調査では、学生委員会のメンバーだけで実施していたんですけど、今後は学生委員以外の経大生も参加できるようにしたり、ちょっと距離が遠いところにも行けるように拡張していきたいなということを話し合っています。

## 最後に年に2回発行している情報誌の『Regio』のことを紹介してください。

**新井** 先ほど述べた通り、いくつかの定番記事があります。まずは、「地究」というコーナー。我々が興味を持った問題について、実際に調べています。これまでに取り扱ってきたのは、ゴミの問題や過疎地域のローカル鉄道路線の問題、移動販売車の問題などです。これらは、各委員が興味を持ったテーマを提案して、その中から1つを選んで調べているので、「学生目線だからいいね」と、複数の先生方から好評をいただいています。

**川上** 次に、学術文化講演会を振り返っている記事があります。講演会を企画した人が、その意図や実際の講演内容、参加者の声などをまとめていて、どういった講演会だったのか記録が残るようにしています。

**菊池** それから、「研究室訪問」というコーナーがあります。これは、先生方が取り組んでいる研究内を紹介するコーナーです。今までに、「観光と地域」というテーマで西野先生・井出先生や「環境」というテーマで飯島先生・森田先生、「交通」というテーマで小熊先生・太田先生にお話を伺ってきました。同じ領域でも、先生によって考え方や研究手法が異なるため、勉強になる上にとっても面白い記事を書くことができたと思います。1・2年生にとっては、ゼミ選びの助けになればいいなという思いもあるコーナーです。

**江口** そして、「チャレンジ企画」というコーナーがあります。これはお口直しのコーナーで、気になったことを検証するコーナーです。学術的な感じではなく体力勝負のような感じで、学内の階段の数を数えたり、夏休み最終日に一号館のラウンジに来る人を調べたりしています。このコーナーでは、学生のみなさんが気になっていること、人手と時間があれば調べてみ

たいことを募集しているので、是非Regioを手にとって応募していただくと嬉しいです。

**出水** 最後に、現地調査の報告をするコーナーもあります。当日のスケジュールや参加者の感想を写真付きでまとめています。教科書で見たような写真などがあり、記事を見た人も訪れたいような内容になっていると思います。

**中村** それぞれの記事には、執筆者の名前を入れることにしていて、自分の名前が入った成果物として残せるようになっています。これは、記事の内容に責任を持つということでもあります。「ガクチカ」の一部として就活でアピールする材料にもなりますね。

## Regioを作成してみてどうでしたか。

**江口** 自分たちで記事を作成した後に、中村先生がしっかりと添削してくれたのが嬉しかったです。原稿が真っ赤になって帰ってきて、まだゼミに所属していなかった時だったので、文章の構成や言葉の選定など、いろいろとアドバイスをいただけたのは、大きな収穫でした。

**出水** WordではなくPublisherを使って編集しています。普通の学生生活では、なかなか使わないアプリに挑戦できたのもよかったと思います。

## 今後、Regioについて考えていることはありますか。

**新井** 今は8ページぐらいなんですけど、今後、学生委員の中からもっとアイデアを出したり、学生から記事を投稿してもらったり、より多くの学生に読んでいただけるように拡充していければと思っています。また、記事の電子化にも取り組んでいます。学生委員会のサイト上には、電子版の記事も載っているので、スマホやSNSで記事を読んでもらえるようになっています。Regioを充実させながら、地域政策学の面白さをいろんな方法で伝えていければとおもっています。

## 新しく学生委員会に入りたいと思っている人にメッセージをお願いします。

**新井** 私は厳密には立ち上げメンバーではないのですが、クローズな組織ではなく結構オープンな取り組みをしていて、創刊号からデザインなどに関わらせていただきました。自分のやりたいことややる気がある人は、この学生委員会の場では是非実現していただきたいと思います。

**出水** 本学の講義は、広く浅くというところが多いのかなと個人的には思っています。自分の興味のある問題が明確で、その観点について学びたいと思っても、講義や期末試験に向けた勉強だけでは、十分に学べていない気がしています。

とても興味のある地域課題があるのならば、この学会で色々なことに挑戦しながらより深みのある学びにつなげてほしいと思います。

**川上** 「学会」という名称についているので、先生方の活動なのかな、難しそうだな、という印象を持たれているのではないのでしょうか。この座談会で紹介したように、実際にはもう少し柔らかい活動をしています。色々な話をしたり、議論を交わしたり出来るメンバーが集まっているので、普通のサークルとは違って「学び」の面にも興味をもって楽しんでくれる新入生には加わってほしいと思います。

**菊池** 研究の動機は、いろいろなところに散らばっていて、誰も身近なところで些細な疑問を見つけることがあると思います。例えば、自分の地元や大学の周辺をちょっと現地調査してみれば、いろんな地域に課題に気づくのではないのでしょうか。それらを解決するために、大学の教授たちがいろいろな観点から調査をしていますが、私たちの活動もすべてが研究とつながっていると思うので、これから四年間、いろいろな研究に取り組みたいという人にとっては、学生委員会での経験が全部生かせると思います。少しでも関心を持ってくれた人は、是非委員会に入ってみてください。

**江口** 学生委員会の活動には、出逢いと発見があります。

例えば、講演会の企画や現地調査を通じて学内での学生生活だけでは得られない出逢いや発見があります。そういう機会を作りたいと思う方は、是非あとに続いてほしいなと思います。また、我々は「地域政策学会・学生委員会」という固い感じの名称で活動していますが、明るくていい雰囲気の組織なので、気軽に参加してほしいと思います。

**中村** 毎週のように活動しているわけではないので、他のサークルとの掛け持ちも可能だよな。「遊びも、学びも」という意欲的な学生さんには、学生委員会のメンバーとしても活躍してほしいですね。

—— 学生委員会の皆さん、中村先生、本日はありがとうございました。

2024年12月4日収録  
聞き手：地域政策学会



## 学生委員会の紹介と勧誘

高崎経済大学地域政策学会は、学術研究やその発表を通じて社会に貢献することを目指し、機関誌『地域政策研究』や情報誌『APPROACH』の刊行・発行、学術文化講演会の開催、学生懸賞論文の募集、卒業論文集の刊行補助などを行なっている学内学会です。学生会員として学会の一員である地域政策学部の学生の意見を反映するほか、新たな活躍の場となるよう立ち上げられたのが、この地域政策学会学生委員会です。

主な活動は学術文化講演会の企画や運営のサポート、オリジナル冊子『Regio(レギオ)』の作成、現地調査(部活動やサークルの合宿にあたるもの)の企画・実施、定年退職を迎える先生の最終講義の運営サポートなどです。

学生委員会が立ち上げられた背景も含め、このように書くとお堅い組織なのかなと思われるかもしれませんが、自身は個性豊かな人たちの集まったゆる〜い学生団体です。毎週部会があるというわけでもないので活動頻度も低く、ほかの部活動やサークルとの掛け持ちも可能です。次に示すのは、1年間の学生委員会の活動スケジュールの一例です。

- 4月 新歓、オリジナル冊子Regio春号の発行
- 7月 学術文化講演会
- 9月 現地調査
- 10月 Regio秋号の発行
- 12月 学術文化講演会
- 3月 現地調査
- 随時 学術文化講演会の企画、Regioの取材・編集、現地調査の企画など

年間のスケジュールは大まかにしか決まっていませんし、とくに現地調査は委員の都合に合わせて柔軟に調整しています。その点も含め、学生委員会の魅力は何といてもその活動の自由さにあります。なかでもオリジナル冊子『Regio』では、取材のため普段講義でしか関わることがない地域政策学部の先生に直接お話を訊きに行くことができるほか、編集や紙面デザインも学生で行なうので、多方面で経験を積むことができます。

そんな学生委員会、現在新しいメンバーを大募集しています。学生委員会ではオリジナル冊子の発行や学術文化講演会の企画など、委員の色々な“やってみたいこと”を学会のサポートを受けながら実現しています。あなたにも、大学生のうちにやってみたい、チャレンジしたい、でも1人だけではできない…そんなアイデアはありませんか。地域政策学会学生委員会でのアイデアを実現しましょう!

学生委員会が気になる!という方はSNS(X・Instagram)でご連絡いただくか、入会用のGoogleフォームに記入し送信してください。ご連絡お待ちしております!



X



Instagram



Googleフォーム